

第 213 回日本小児科学会千葉地方会 第 1403 回千葉医学会分科会

日時：2019 年 6 月 9 日（日）12：30～16：45

会場：千葉大学医学部附属病院外来診療棟 3 階

ガーネットホール



事務局 千葉大学大学院医学研究院小児病態学

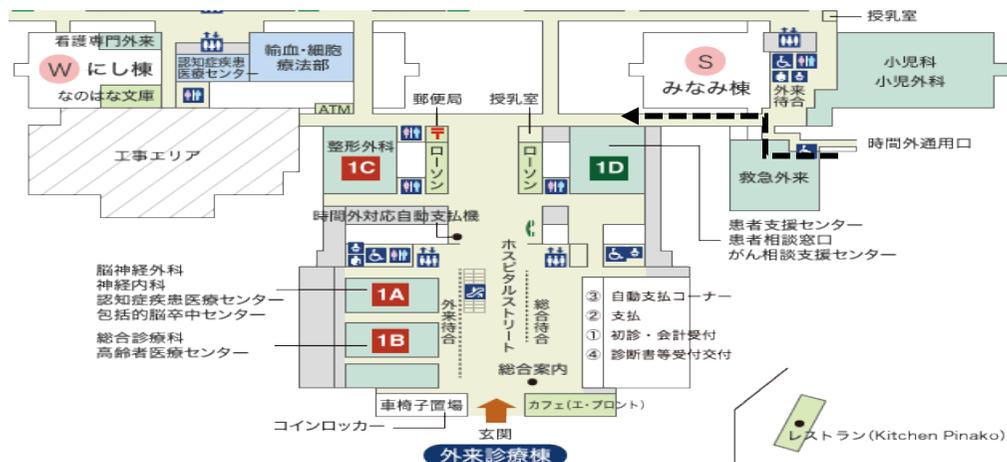
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1

電話 (043) 226-2144 (直通)

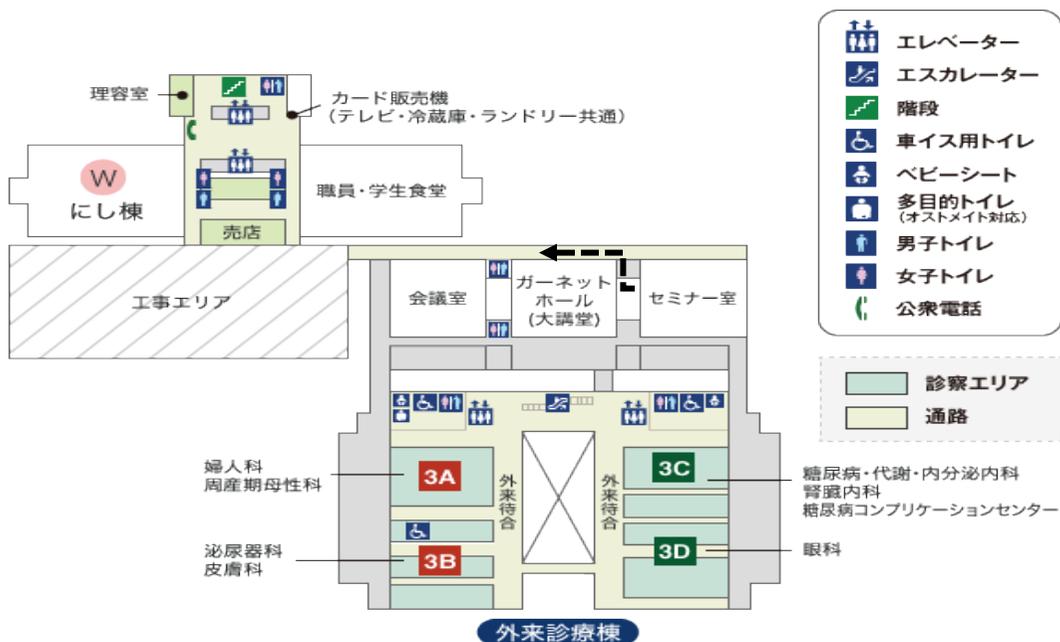
ファクシミリ (043) 226-2145

会場アクセス

- 1階救急外来時間外通用口より入り、廊下中ほどの階段で3階へ



- 3階廊下左手中ほどまで進むとガーネットホールがあります



※ エレベーター使用をご希望の方は、職員カードが必要なため、事務局に事前にお知らせいただくか、当日救急外来入り口にて医局スタッフをお呼び出し下さい。

1. 参加の方々に

会場費：500 円を受付にてお支払い下さい。

年会費：千葉地方会年会費 3,000 円を未納の方は受付にてお支払い下さい。今年度限り入会希望の方はお申し出ください。

記帳：出席者は千葉大学医学部附属病院ガーネットホール前受付で記帳をお願いします。

小児科専門医更新用の参加証を受付でお受け取り下さい。

日本小児科学会/日本専門医機構 新更新単位 参加証 iv 1 単位

今回特別講演の受講証は用意してございません。

病院立体駐車場ご利用の方は記帳の際に割引券をお受け取り下さい。(1 時間以上 6 時間以内は 200 円, 6 時間以上は 300 円のご負担となります。)救急外来付近の平面駐車場では割引券の使用はできませんのでご注意ください。

医学部駐車場もご利用可能です。受付で割引券(無料券)をお渡しします(数に限りがございます)。または、医学部正門前の守衛所で各自手続きをして無料券をお受け取りください。

質疑：活発な討論をお願いします。時間に制約がありますので、質問する方はあらかじめマイクの前にお立ち下さい。

託児所：臨時的託児所を参加者のために設置します。

託児所の利用は無料ですが、事前登録をお願いします。

利用希望の方は、2019 年 5 月 23 日(木)までに、以下の内容を明記し託児業者に直接お申し込みください。(前プログラムに記載済み)

連絡内容：利用希望日・学会名(2019 年 6 月 9 日・第 213 回千葉地方会)・保護者氏名・所属・連絡先(住所・電話およびファックス)・幼児数・年齢
ファックス送付先：043-225-6525 トレンジィワールド 斉藤寿美子様

2. 演者の方々に

- 1) 発表時間は 6 分, 討論 3 分です。時間は厳守願います。
- 2) 映写は 1 面です。PC プレゼンテーションは、ご自身でリモコンを用いての操作が可能です。事務局にて行う場合は、スライド受付でお申し付けください。
- 3) 発表方法は PC プレゼンテーションのみです。演者の方は、当日、ウィンドウズ版 Power Point (2007, 2010, 2013 に対応しています)で作成したファイルを USB フラッシュメモリーに書き込み、発表の 30 分前までに映写受付までご提出ください。

注 1. 発表直前の提出あるいは原稿の変更は対応できません。ご協力願います。

注 2. ムービーのデータは、映写できないことがあります。ご注意願います。

注 3. アニメーションの設定は必要最小限にして下さい。

- 注4. スライドショーの設定は、自動スライドショーにしないようお願いいたします。
- 注5. USB フラッシュメモリーがコンピュータウイルスに感染していないことを事前にご確認願います。

お 知 ら せ

1. 次回（第 214 回）千葉地方会

- 期 日 2019 年 9 月 15 日（日）
会 場 千葉市文化センター
シンポジウム 「半世紀たった川崎病の現在と未来」
コーディネーター
千葉市立青葉病院 地引利昭先生
東京女子医科大学八千代医療センター 濱田洋通先生
1) 病因究明の現在（千葉大学医学研究院公衆衛生学 尾内善広）
2) 診断の手引きの改訂（日本大学医学部小児科 鮎沢衛）
3) 急性期治療の進歩と課題（東京女子医科大学八千代医療センター小児科 濱田洋通）
4) 遠隔期管理の進歩と課題（日本医科大学小児科 深澤隆治）
※新専門医制度における iii 小児科領域講習の単位認定予定
一般演題 締め切り：2019 年 7 月 16 日（火）必着。（厳守願います）
発表形式は PC プレゼンテーションのみとさせていただきます。
託児所 臨時の託児所を参加者のために設置します。
託児所の利用は無料ですが、事前登録をお願いいたします。
利用希望の方は、2019 年 8 月 29 日（木）までに、以下の内容を明記し託児業者に直接お申し込みください。
連絡内容：利用希望日・学会名（2019 年 9 月 15 日・第 214 回千葉地方会）・保護者氏名・所属・連絡先（住所・電話および FAX）・幼児数・年齢
FAX 送付先：043-225-6525 トレンジィワールド 斉藤寿美子様

2. 演題申し込みについて

演題は常時受け付けております。

※第 213 回地方会より一次抄録の文字制限を 200 字とし、修正のある場合のみ地方会終了後に再提出いただくことになりました。

タイトル、所属名・演者名、200 字以内の抄録をつけて下さい。 所属名と演者名の記載形式は上記記載の二次抄録と同様の形式でお願いします。なお 1 例報告の共同演者は 10 名以内としてください。抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので、以下のような形式での提出をお願いいたします。

- 例) 過去 3 年間における川崎病 IVIG 不応例の臨床像
亥鼻大学大学院小児病態学¹⁾、千葉市立川崎病院小児科²⁾、
いなげこどもクリニック³⁾

千葉 太郎¹⁾，亥鼻 健²⁾，西千葉次郎²⁾，稲毛慎太郎³⁾，東 亮²⁾
201X～201Y年に経験した川崎病は54例であり，IVI g 不応例が12例であった。
IVIG 不応例は男児が優位に多かった。群馬スコアの陽性率，感度，特異度は，IVIG
有効群と無効群において40%vs79%，55%vs67%，45%vs69% (p<0.1)であった。IVIG 不
応例には追加治療としてIVIG単独が4例，IVIG+PSL 5例，IVIG+CyA 3例行わ
れ，2例に冠動脈の拡張を認めた。(197字)

以下のカテゴリーから，希望分野の選択（最大第3希望まで）の指定をお願いします。
す。

1. 新生児・未熟児， 2. 遺伝先天異常， 3. 内分泌・代謝， 4. 感染症
5. 免疫・アレルギー・膠原病， 6. 呼吸器， 7. 消化器， 8. 循環器
9. 血液・腫瘍， 10. 腎・尿路系， 11. 神経， 12. 救急， 13. 保健

電子メールでお申し込みください。メールタイトルに「第2XX回千葉地方会抄録
〇〇病院 〇山〇子」のように記載してください。電子メールでお送りいただいた
場合には受領の返信をご確認ください。3日以内に返信がない場合は再度ご連絡く
ださい。

演題送付先

アドレス：igaku-shonika@chiba-u.jp

郵送先：〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学大学院小児病態学内 千葉地方会事務局 医局秘書宛

電話 043-226-2144／ファクシミリ 043-226-2145

一般演題の演者（発表者）は，千葉地方会の会員であることが必要です。未入会の方
は，入会手続きをおとりください（事務局秘書宛 電話 043-226-2144）。

3. 指定発言について

指定発言を希望される演題につきましては，演者の方々が直接御指名下さい。

4. 要望演題について

日本小児科学会千葉地方会では，従来の指定発言とは別に，要望演題として識者の方
に講演して頂くことがあります。発表時間は6分以内，質疑応答は3分以内で
す。原則としてプログラム委員会で決定されます。

5. 千葉地方会学術集会委員会（プログラム委員会）

2019年7月30日(火)千葉大学医学部附属病院3階セミナー室1にて，19:00より
開催します。

12:30～12:57 座長 白戸 由理（東京女子医科大学八千代医療センター小児科）
一般演題

12:57～13:10 座長 山下 喜晴（千葉大大学院医学研究院小児病態学）
一般演題

13:10～13:46 座長 湯浅 正太（亀田総合病院小児科）
一般演題

14:00～14:27 座長 篠塚 俊介（松戸市立総合医療センター小児医療センター小児科）
一般演題

14:27～14:40 座長 江畑 亮太（千葉大学大学院小児病態学）
一般演題

14:40～14:57 座長 田中圭一郎（順天堂大学浦安病院小児外科）
一般演題

14:57～15:15 座長 金澤 正樹（千葉市立海浜病院小児科）
一般演題

特別講演

15:30～16:00

座長 濱田 洋通（東京女子医科大学八千代医療センター小児科）

小児心不全の的確な診断をめざして ～右心室機能の新たな評価法の開発～

江畑 亮太（千葉大学大学院小児病態学）

小児心不全の心エコー評価について概説させていただくとともに、先天性心疾患などの小児心疾患だけではなく、何らかの基礎疾患をもつ患者の心筋障害の早期診断・予後予測など用いられつつあり、今後役割が増大すると思われる心筋ストレーン解析を用いた心機能評価についても紹介させていただきたい。

16:00～16:30

座長 石井 光子（千葉県リハビリテーションセンター小児科）

発達障害診療をしてきて最近考えていること

永沢 佳純（千葉県リハビリテーションセンター小児科）

私が発達障害診療を始めたのは、当センターの外来に相談に来る人たちがいたからだ。始めた頃にあまりにわからず、何とか役に立ちたいと思い、子どもと親から話を聴き、研修や講習を受けに行き、つながれるところとつながってきた。いくらかわかることが増えた気がする今も、試行錯誤しつつ診療している。子育て支援の役割を担う小児科医が、発達障害のことを知って親子に関わることに意味があると思っている。診療で考えていることをお伝えしたい。